

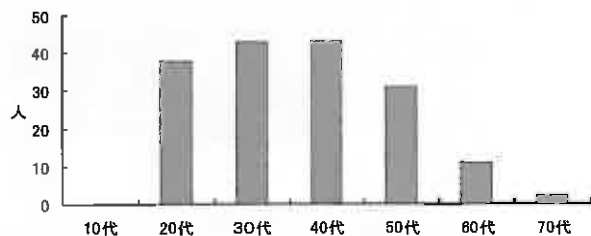
## ◆担い手育成事業

# 平成19年新規漁業就労者調査

水産業改良普及センター 牧野清人

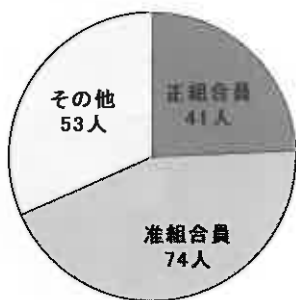
平成19年1月から12月までの新規漁業就労者について、県内各漁協の協力を得て調査を行った。調査内容は新規参入者の年齢、性別、業態、正組合員、准組合員の別であった。また、組合脱退者についても聞き取り調査を行った。新規参入者は168名で、年代をみると、10代の参入者はおらず、20代から50代の人数がそれぞれ30名以上、60代が10名程度、70代が2名という結果であった。性別でみると、男性が167名、女性が1名であった。

年代別新規参入漁業者数

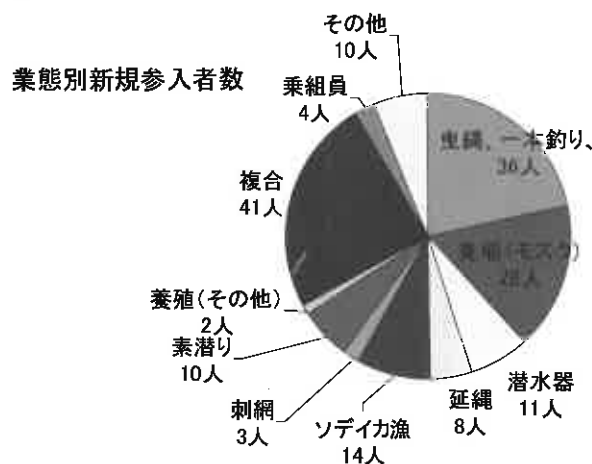


新規参入者の中で、正組合員は41名、准組合員は74名、その他が54名であった。その他は組合事務局によると、組合員の資格は有しないが、水揚げを行っており、今後水揚げの状況によって組合員資格審査を受け、正組合員若しくは准組合員になる予定とのことであった。

新規参入漁業者の内訳

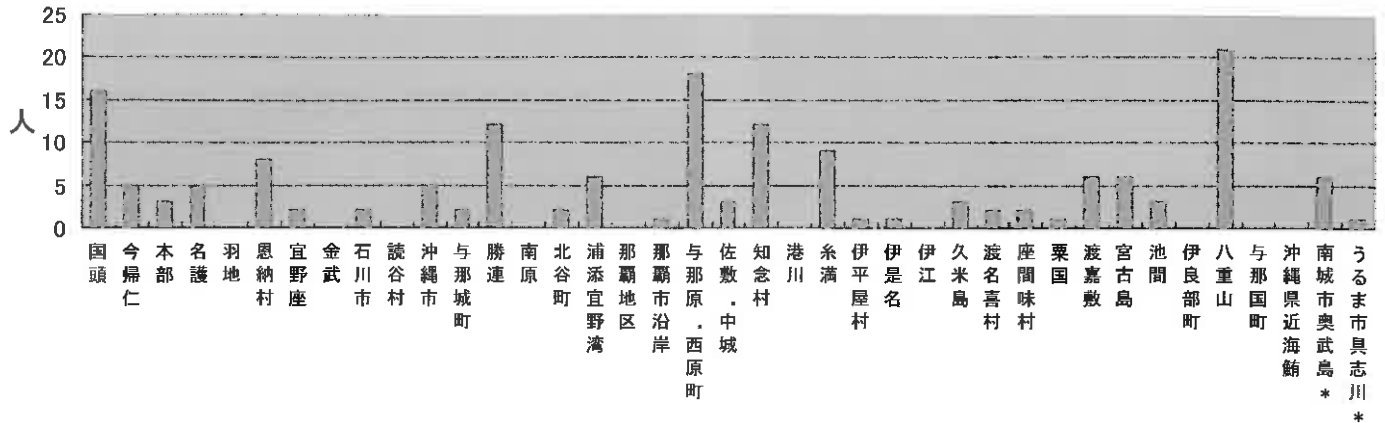


新規参入者の漁業種類は複合が41名と最も多く、そのうち10名が一本釣りとはモズク養殖の複合であった。単一の業態としては曳縄、一本釣り漁業が36名と最も多く、次いでモズク養殖が28名、ソデイカ漁が14名といった順で、モズク養殖やパヤオ漁業が就業者が多い結果であった。



各漁協ごとの新規参入者数をみると、八重山漁協が23名と最も多く、次いで与那原・西原町漁協が18名、国頭漁協が16名の順で多い結果で、それぞれの内訳をみると、八重山、国頭では一本釣り漁業の新規参入者が最も多く、与那原西原町ではソデイカ漁が最も多いことがわかった。

### 漁協別新規参入者数



平成19年における漁協の脱退者は190名で、その内任意脱退者が120名、組合員資格の喪失が26名、死亡による脱退者が44名であった。任意脱退者の中には高齢や病気などにより漁が続けられないという者が目立ったが、今回の調査においては詳細な事情については聞き取れなかった。今後は脱退の理由、脱退者の業態や年齢構成などについて、詳細を調査していきたい。

### H19年組合員脱退者内訳

